

2025/1/8 (水)

朝の礼拝

聖書 ヨハネによる福音書 15章 1-5節 (新約聖書 194頁)

私はまことのぶどうの木、私の父は農夫である。私につながっている枝で実を結ばないものはみな、父が取り除き、実を結ぶものはみな、もっと豊かに実を結ぶように手入れをなさる。私が語った言葉によって、あなたがたはすでに清くなっている。私につながっていなさい。私もあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、私につながっていなければ、実を結ぶことができない。私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである。

### もうひとり

私たちは人間関係という自分と他人、それが一人でも大勢でも、やっぱり自分中心に考えますね。もちろん他人も自分中心で考えています。でも聖書は自分と他人の間には、どちらにも関係を持つもうひとりの存在がいると言っています。

例えば自分と仲の良い人同士、友だちでも彼氏でもいいのですが、もちろん相思相愛なわけですよ。でもちょっとしたすれ違い、些細なことで気まずくなると口も聞きたくない、顔も見たくないとなるわけです。そこで仲裁に入ってくれる存在がほしいですね。

その仲裁の人は自分のことより、人と人の間に入り、それぞれの気持ちを聞いてくれます。ただ大事なのはあくまでも当事者の関係であって、仲裁する人は仕える、縁の下での力持ち、黒子です。わたしはその役割を担える、もうひとりの存在がイエスだと思います。

イエスはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝、わたしにつながっていなさい。そうすれば実を結ぶと言っています。誰もが自分中心で、お互いに無関心な世界でも、無視されている人を愛している方がいます。もうひとりの存在としてイエスのまなざしを意識してみましょう。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたはまことのぶどうの木、わたしたちはその枝です。わたしたちは自分たちだけでつながっているのではありません。あなたが共にいて、わたしたちの間にいらっしゃいます。どうかお互いしか見えない時には、祈りの中であなたの存在に気づかせてください。いま愚かな争いで、また身近な家族の病気で愛する人と離されている人たちがいます。どうかあなたが共におられ、互いに祈り励まし、共に喜び感謝できる時をひと時でも早く迎えることができますように守り、導いてください。どうか今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン